



#3「2030年の暮らしをどう創るか」

これまでの検討会では、マクロ経済と再配分、幸せで持続可能な社会、働き方と暮らし方、縁(つながり)のある社会などの目指す姿について対話をしてきました。

いっぽう目指す社会と現状との間には、ギャップがあります。
このギャップを埋めていくにはどうしたら良いかを #3では考えます。

目指す社会を実現するために、
暮らしの元をどう創りだすか(つまり一人ひとりの経済活動をどうするのか)?
人々の価値観やライフスタイルをどうするのか?
また、このための教育をどうしていくのか?
...などの、もっとも大切なところの対話をします。

1. 生活のベースとなる暮らしをどうやって創っていくのか?

経済は1人ひとりの経済活動のうえに成り立っています。

私たちは、

- ① 20世紀型の輸出主導型工業社会を、引き続き目指すのでしょうか?
- ② 国内は技術開発を中心とし、海外投資による収益で暮らしていくのでしょうか?
- ③ サービスやソフト産業を主体にする産業構造に転換していくのでしょうか?
- ④ 生活の効率を改善し、国内の自給率を高め、資源的に自立していくのでしょうか?
- ⑤ 経済成長指向から転換し、家族や地域で支え合う堅実な生き方を目指すのでしょうか?

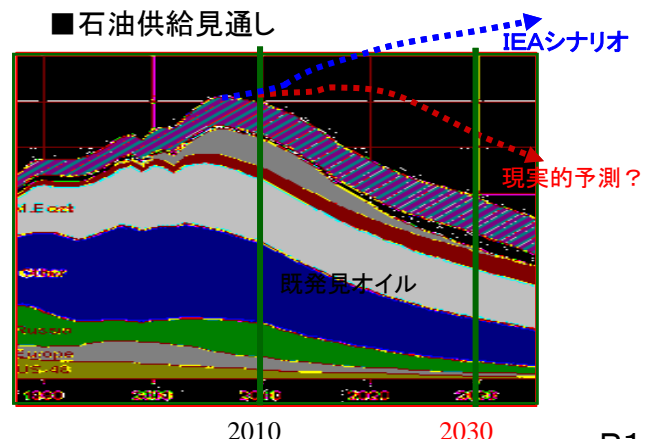
参考 ⇒ 環境省「2050年の5つの社会シナリオ」別紙

どんな社会を目指すかは、つまるところ、私たちがどんな価値観で
どんなライフスタイルを望むかにかかっています。

ちなみに、私たちは石油供給のピークは近いと
考えています。
そしてエネルギー依存型の産業社会において
これまでのような成長は難しいと考えています。

石炭、天然ガスなど他のエネルギーについても
同様なことが言えます。

資源のピークが到来するとともに採掘コストや
輸送コストも増大し、従来のようなエネルギーの
使い方は難しいと考えています。



2 "2030ビジョン"プロジェクトが目指すのは『皆』が希望を持てる幸せな社会です。

◇ゆえに、自分が幸せになるだけでなく、他の人も同時に幸せになることが大切です。

～このためには、利他、共生の価値観や

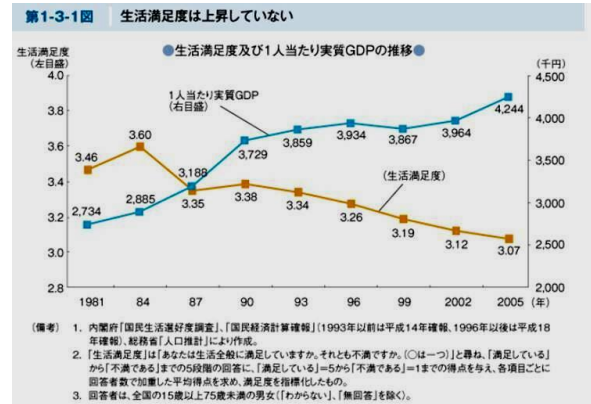
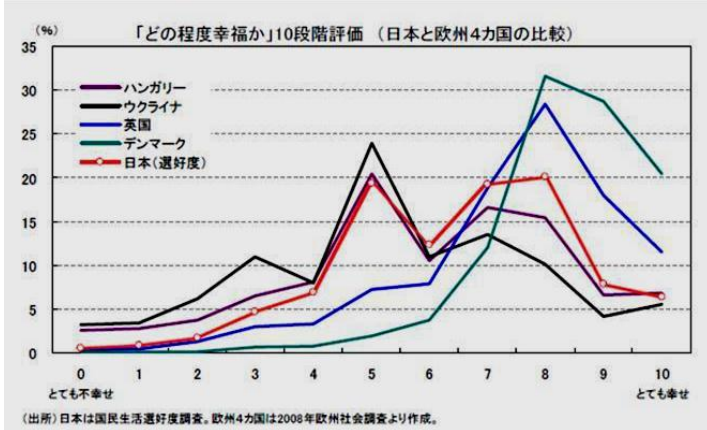
「三方よし」(売り手よし、買い手よし、世間よし)の考え方が大切です。

～「人の喜びが自分の幸せと感じられる心」が大切です。

日本の「幸福度」のデータを見てみましょう。

赤い線が日本ですが、

「5点:どちらも言えない」と「8点:幸せを感じる」の二つの山があります。



皆が幸せになるには、この5点以下の部分をなくす必要があります。

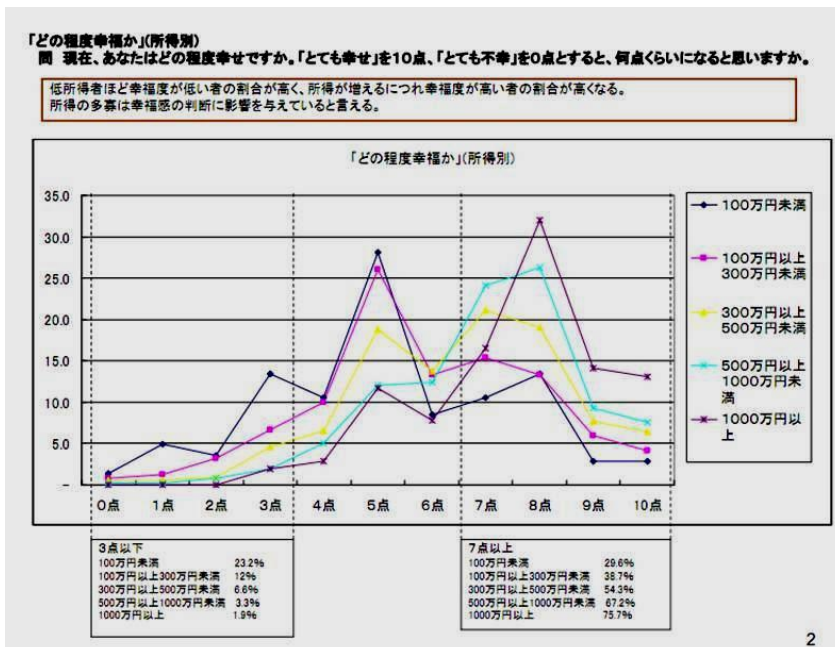
▽そこで、所得と幸福度の関係を見てみましょう。

「GDPと幸福度には相関がない」(右上の図)が通説ですが、

個人の所得と幸福度には強い相関があります。

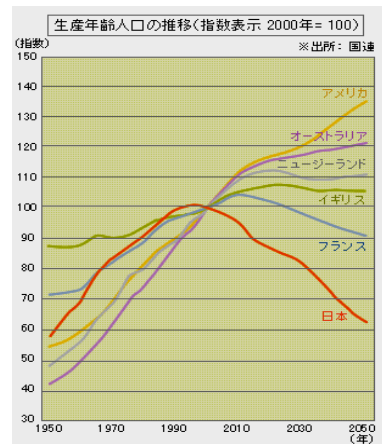
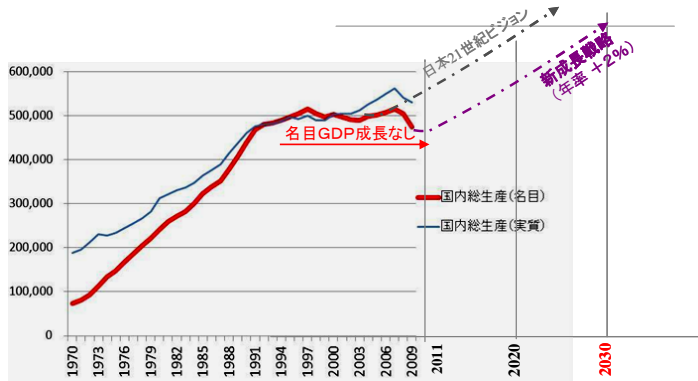
つまり、年収500万円以上の人8点の割合は高く、5点の割合は少ない。

いっぽう年収300万円未満の人は5点がもっとも多く、それ以下の比率も高めです。



○経済成長による GDPアップで 配分の原資を増やすのか？

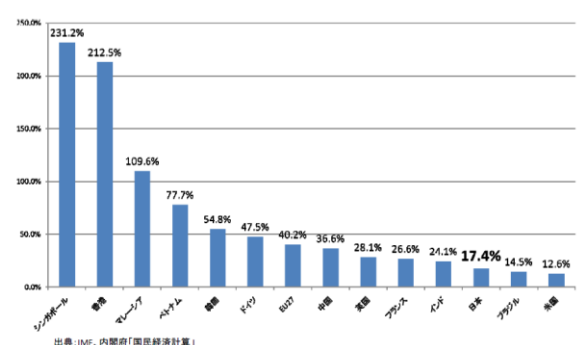
しかし、過去15年、成長して来なかった経済が急に右肩上がりになるのでしょうか？
生産年齢人口が減っていくなかで可能なのでしょうか？



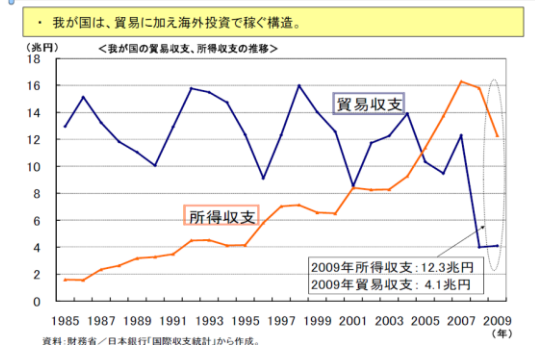
出典：新生銀行HP

しかも日本の貿易のGDP寄与率は15%程度。圧倒的に内需型の国なのです。
また、海外からの所得収支も2~3%に過ぎません。
これらから、多大な収入を得ることは難しいと言えます。

5-4 各国輸出依存度の比較(2008年)



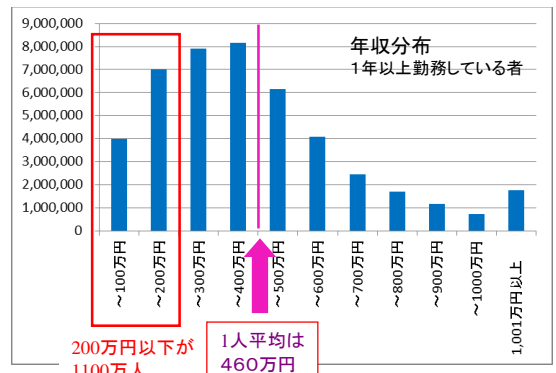
2-2 日本の貿易収支と所得収支の動向



○一人当たり可処分所得が現状並みか
多少上回るレベルにして、
後は配分でカバーしてはどうでしょうか？

そこで所得配分をどう捉えるのか？

- ・個人の努力の当然の帰結とするのか？
 - ・配分を変えるのか？
 - ・税による再配分で補完するのか？
- ...BI(ベーシックインカム)は
究極の手段ですが合意は困難です



○あるいは、金による配分とは別の共同社会を考えるのか
例えば、自分たちの周囲で、ローカルな経済を創り出し、
自給自足、互助社会とするのか？

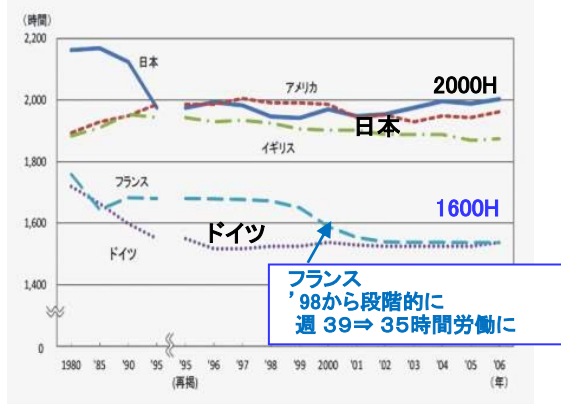
◎また私たちは「誰もが社会から必要とされていると感じられる社会」を目指しています。

- ～ そのためには、誰かの役に立っていると実感できる場が必要です。
- ～ 働く場も含めて人との関わりのある場が必要です。
- ～ 働くことを通して、自分の成長が実感できるようになりたいです。
- ～ 「おかげさま」のような感謝のココロも大事です。

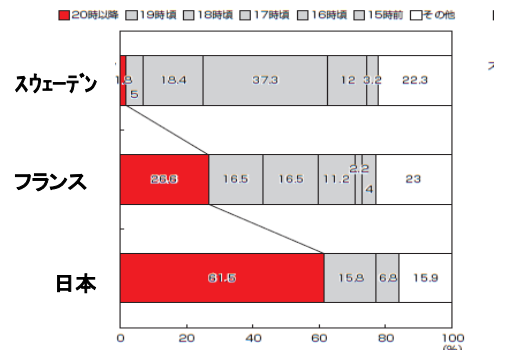
これには、「雇用」というこれまでの就労形態でない働き方も大切だと考えます。
また、生涯現役や、多様性を尊重し皆に”はたらく”場があることも重要です。

さらに、これまでは当たり前と思ってきた働き方を、見直すことも必要ではないでしょうか？
つまり、自分の自由時間を大切にし、人とのツナガリを大切にする生活です。

● 欧州の労働時間は日本より2割少ない



● スウェーデンで夜8時に帰宅する男性は極少



【参考】「幸せの経済学」ローカリゼーションのススメ

3. このような意志、価値観、生き方が社会にしみこむにはどうしたら良いのでしょうか？

- ✓ 我々、大人の考え方をどう変えていくのか？
あるいはどう広めていくのか？
- ✓ 公教育や家庭教育をどうしていくのか？
 - ～ 自己肯定観や広い意味での倫理観が涵養される学びの場とは？
 - ～ 受験競争に勝ち抜き一流大学に入ることが教育のゴールで良いのでしょうか？
 - ～ 社会の成立ちを考え、自らが自分の役割を決められる学びの場とは？
- ✓ 生涯教育をどうしていけばよいのでしょうか？
 - ～ 暮らしのもととしての「はたらく」ことの意味
 - ～ それぞれの特性にあった職業観と教育
 - ～ ニーズを喚起する情報と、向上機会の提供